

あけまして おめでとうございます



●特集 ②-⑤  
 2008年は藤樹先生生誕400年  
 高島のこころを すべての人へ

- 6-9 タウントップピクス
- 10 みんなで5・7・5
- 11 市長日記・省エネ長者作戦
- 12-13 まちネタ写真館
- 14 健康生活していますか？
- 15 びょういんだより
- 16 教育委員会 information
- 17 国保年金あらかると
- 18-21 情報おしらせ版
- 22 そうだ図書館に行こう♪
- 23 窓口・納税
- 24 歴史散歩

市政各般にわたりご協力いただいております皆様への書面による年始のごあいさつはご遠慮させていただいております。  
 高島市

「人気急上昇中！ スノーシュートレッキング」  
 中央分水嶺高島トレイル赤坂山付近で 2007.1.30撮影



歴史散歩

No.37

藤樹文庫の開設

明治時代は、5年（1872年）の学制発布、12年の教育令制定などに伴い、全国的にさまざまな手法で教育普及への取り組みがなされた時代でした。そのうちのひとつが図書館（文庫）の開設です。ただ図書館という名称が初めて使われたのは日本初の国立図書館である東京図書館が開館した明治13年ですが、本を書架に並べて公開したり貸し出ししたりする図書館活動の始まりは、奈良時代ころであったことがわかっています。明治時代に設置された図書館の形態は、国立・郡の教育会によるもの、私立など様々でしたが、いずれも独立の施設が造られることは少なく、公共施設や寺院の一角などに置かれることが多かったようです。開設のきっかけは、国家記念事業の一環などである場合が多く、具体的には、日露戦争の開戦、大正天皇の即位、天皇の行幸などのときに、それらを記念する文庫が設けられました。

高島市内では、明治38年（1905年）5月、郡によって「藤樹文庫規則」が制定され、9月に藤樹書院内に藤樹文庫（その後、藤樹図書館と改称）が設立されています。中江藤樹の居宅および塾でもあった藤樹書院は、早くから文庫的性格をもっていたようで、同年10月25日付けの「高島郡報」によると、藤樹文庫の創設に伴い、これまで書院に伝わってきた多くの図書が藤樹文庫に引き継がれたとあります。ただ実際は、開設当初の蔵書数は文庫と呼ぶには不足気味で、大正時代の蔵書の数とは異なり、文庫開設以降に当時の郡長や郡内の有志から寄付されたものであったといえます。



▲藤樹図書館

時は県内でも異色の活動として知られ、「高島郡報」には小学校への貸出状況等が詳しく報告されています。藤樹文庫の蔵書の一部は、中江藤樹記念館に引き継がれており、現在も来館者の皆さんに見ていただくことができます。

(文化財課)



冬の使者が今年もやってきました。

(今津町北仰で)

編集後記

▼冬の使者「コハクチョウ」が今年もやってきました。毎年100羽前後が、高島市の湖岸でひと冬を過ごします。こんなに広い琵琶湖でも、コハクチョウが生息できる場所は限られているといえます。コハクチョウが飛来し、安心して越冬できる地であり続けたいですね。▼子どもからお年寄りまでが気軽に楽しめる雪あそびの道具として、スノーシューが人気を集めています。スノーシューとは、現代版の西洋式かじきのことです。これを使って雪山に挑むスノーシュートレッキングのフィールドとして、高島トレイルが近年注目を浴びています。真っ白な雪で覆われる冬の高島トレイルの美しさは他の季節とは一味違う魅力があります。この魅力を、より多くの方が楽しめる体制もぜひ整備しました。冬の新しい楽しみ方として、一度、体験してみませんか？▼1月1日が高島市も満3歳になりました。今年も、藤樹先生生誕400年の記念すべき年です。皆さんのご参加をよろしく願っています。

(広報担当)



古紙/UV配合率100%再生紙を使用。

大豆インクを使用しています。